

事業の背景・目的

国内希少野生動物種であるエラブオオコウモリは、口永良部島に多く、トカラ島嶼にも生息しています。口永良部島では、火山活動や外来種ヤクシマザルの影響などにより、本亜種の生息環境が悪化しています。一方、トカラ島嶼でも、かつて生息していた島々から本亜種が姿を消すなど、生息域の狭小化と個体数の減少がみられます。本亜種が自然状態で安定的に存続するには、これら島嶼での生息環境の保全と、それを効果的にする啓発活動を広域的な視点から取り組むことが重要となります。そこで、本事業では、生息域の住民が研究者と協働し、本亜種の生息状況を把握するとともに、生息に適した環境を維持・改善し、啓発活動を行うことで、本亜種の絶滅を阻むことを目的にしました。

事業の内容

生息状況の把握

前年度のトカラ有人7島での調査で、生息が確認された中之島、平島、悪石島において、日没後の飛翔やぶら下がり個体数の計数、食痕調査などモニタリング調査を行い、生息情報を充実させました。口永良部島でもモニタリング調査を行い、トカラ島嶼と合わせ本亜種の広域的な生息状況を把握しました。また、モニタリング調査は、調査方法等を参加者に講習するなどワークショップを兼ねて実施しました。

生息環境の保全

口永良部島では、外来種のノヤギやヤクシカによる林床植生の被害や、火山活動や台風で樹林が荒廃しています。なぐらや給餌場の回復のためにエサになる木の植樹を行いました。また、外来種のヤクシマザルの捕獲を試みました。



周知普及・啓発事業

本亜種が生息しているトカラ中之島・平島・悪石島で、生態を説明したり、飛翔や被食樹にぶら下がりなどの夜間行動を観察しやすい場所に案内するポスターを作成し島内に張り出しました。また、本亜種の行動を撮影した動画や生態をわかりやすく解説した動画をネットに掲載しました。動画に誘導するQRコードをポスターや、前年度に設置した看板に表示することで、異なる情報媒体につながりを持たせました。トカラ島嶼と口永良部島では、本亜種の生態を紹介し、保全や啓発活動の重要性を説明する講演会・夜間観察会を開催しました。

遺伝子情報の把握

中之島、平島、悪石島、口永良部島で、食痕や糞を収集し、遺伝子調査を行いました。ミトコンドリアDNA分析及びマイクロサテライト分析により、遺伝子情報を把握し、それぞれの島嶼の個体の遺伝子データベースを作成しました。

得られた成果

生息状況調査から、少なくとも口永良部島で約30頭、トカラ島嶼では中之島約10頭、悪石島約30頭、平島1頭の生息が確認されました。遺伝子調査では、トカラ島嶼での検体数が不足するものの、遺伝的多様性と各個体群間の遺伝子流動を明らかにするための基礎データが得られました。簡易アンケートから、本亜種の認識度合いの向上が見られ、さまざまな啓発活動による効果が確認できました。